

2022 年度

(公財) 北海道サッカー協会 都道府県審判トレセン ユース 3 級審判員研修会② 実施報告書

平石 暁史

**都道府県審判トレセン ユース 3 級審判員研修会②**

○ 2023 年 3 月 24 日 (金) (伊達市)

【会場】 ホテルローヤル 研修会場

【タイムスケジュール】

19:00 集合 — 19:15 開講式・オリエンテーション — 19:30 講義 1 「チームワークとは？」  
20:40 大会要項の確認・事務連絡等 — 21:00 1 日目日程終了



【参加者】 審判員 9 名

阿部拓歩 (林-ツク 3 級)・猪股陽菜梨 (空知 3 級)・蛭子拓海 (札幌 3 級)・神野亮 (室蘭 3 級)  
鈴木辰汰 (林-ツク 3 級)・千葉吏恩 (札幌 3 級)・秋山心音 (北海道 2 級)・高橋陽斗 (北海道 2 級)  
二谷夢翔 (北海道 2 級) ※秋山・高橋・二谷については当年度 2 級登録の高校 3 年生

【インストラクター】 平石 暁史 (北海道サッカー協会 審判委員会育成部部長)

靄山 智哉 (道央ブロックレフェリーアカデミーインストラクター)

【講師補助】 鈴木 敏晴 (室蘭地区サッカー協会 審判委員会委員長)

長浜 杏名 (空知地区サッカー協会 審判委員会女子部長)

【オブザーバー】 山崎 裕彦 (日本サッカー協会審判委員会 北海道地域担当 RDO)

山下 浩司 (函館地区サッカー協会 審判委員会委員長)

三平 富喜雄 (室蘭地区サッカー協会 審判委員会副委員長)

○ 2023 年 3 月 25 日 (土) (伊達市)

【会場】 まなびの里サッカー場

【タイムスケジュール】

8:00 会場到着・ウォーミングアップ — 9:00 審判実技「伊達スプリングフェスタ」(途中昼食)  
16:00 競技終了・振り返り — 17:00 ホテル到着・夕食 — 19:00 北海道レフェリーアカデミー 3 期  
生による講話 — 20:00 講義 2 「理想の審判員像」 — 21:00 2 日目日程終了



【参加者】 審判員 9名

阿部拓歩（林-ツク3級）・猪股陽菜梨（空知3級）・蛭子拓海（札幌3級）・神野亮（室蘭3級）  
鈴木辰汰（林-ツク3級）・千葉吏恩（札幌3級）・秋山心音（北海道2級）・高橋陽斗（北海道2級）  
二谷夢翔（北海道2級）

【インストラクター】 平石 暁史（北海道サッカー協会審判委員会育成部部員）

靱山 智哉（道央ブロックレフェリーアカデミーインストラクター）

大石 かおり（北海道サッカー協会 審判委員会女子部副部長）

【講師補助】 鈴木 敏晴（室蘭地区サッカー協会 審判委員会委員長）

長浜 杏名（空知地区サッカー協会 審判委員会女子部長）

【オブザーバー】 山崎 裕彦（日本サッカー協会審判委員会北海道地域担当 RD0）

山下 浩司（函館地区サッカー協会 審判委員会委員長）

三平 富喜雄（室蘭地区サッカー協会 審判委員会副委員長）

○2023年3月26日（日）（伊達市）

【会場】 まなびの里サッカー場

【タイムスケジュール】

8:00 会場到着・ウォーミングアップ - 9:00 審判実技「伊達スプリングフェスタ」（途中昼食）  
13:00 競技終了 - 13:30 振り返り・フィードバック - 14:30 3日目日程終了・審判員解散



【参加者】 審判員 9名

阿部拓歩（林-ツク3級）・猪股陽菜梨（空知3級）・蛭子拓海（札幌3級）・神野亮（室蘭3級）  
鈴木辰汰（林-ツク3級）・千葉吏恩（札幌3級）・秋山心音（北海道2級）・高橋陽斗（北海道2級）  
二谷夢翔（北海道2級）

【インストラクター】 平石 暁史（北海道サッカー協会審判委員会育成部部員）

靱山 智哉（道央ブロックレフェリーアカデミーインストラクター）

大石 かおり（北海道サッカー協会 審判委員会女子部副部長）

【講師補助】 鈴木 敏晴（室蘭地区サッカー協会 審判委員会委員長）

長浜 杏名（空知地区サッカー協会 審判委員会女子部長）

【オブザーバー】 三平 富喜雄（室蘭地区サッカー協会 審判委員会副委員長）

研修をふり返って

○参加審判員 阿部 拓歩（オホーツク地区所属3級審判員）

今回のユース3級審判員研修会に参加させていただき、所属する地区を離れての研修会に初めて参加したということもあり、とても不安な気持ちがありましたが、道内から集まった参加者と交流することができてよかったです。今回の研修会では多くのインストラクターの方々に自分のレフェリング

を見ていただき、自分のレフェリングの良いところや足りないところを発見することができました。インストラクターの方から自分が苦手と感じていたポジショニングについて、何を見るのか、どこにいると見やすいのかなどのアドバイスをいただくことができました。そして、研修会を通して、審判員同士が気を配ることやアイコンタクトをとることなど、審判団のチームワークの大切さについても学ぶことができました。この研修会で学んだことを、今後の審判活動に生かしていきたいと思えます。このような機会をいただきありがとうございました。

○参加審判員 猪股 陽菜梨（空知地区所属3級審判員）

今回初めての研修で緊張しましたが周りの方々のおかげでいろいろな事を経験し、学べた事が沢山ありました。研修に行く前に決めた課題にはボールに背を向けて走らないことや他のユース審判員の方たちとのコミュニケーションでした。当日は、副審を担当する際にラインキープが出来ていないことが多く見られると指摘されました。また、自信を持ってフラッグを上げるといいとアドバイスを受けたり、アディショナルタイムについての詳しい知識についても教えて頂いたり、とても勉強になりました。私はまだまだ力不足な所や知識不足な所もあるので、これからは日々トレーニングを頑張っけて続けていきたいです。3日間寄り添ってご指導頂いたインストラクターの皆さんやこのような場を設けて頂いたことに感謝し、今後に生かせるよう頑張りたいです。ありがとうございました。

○参加審判員 蛸子 拓海（札幌地区所属3級審判員）

私はこの研修会で身につけたこと、感じたことは3つあります。1つ目は、“自信“です。私はまだ、審判を数回しか経験したことのない初心者でした。そのため、研修2日目の最初の第4の審判員は不安で仕方ありませんでした。しかし、チームメイトの胸を張ってレフェリングをしている姿がとてもカッコよく、「自分もこうなりたい。」と思うようになり、次の試合からは自分も胸を張って第4の審判員を務めることができました。さらに、最初の試合後の振り返りで他の人より多くのミス指摘していただき、多くの改善点が見つかりました。それを次の試合、また次の試合へと活かすことで大きく成長することが出来たと実感しています。このようにして、私は“サッカーに対する意欲“や“絶対のメンタリティー“のようなものが身につき、それが“自信“へと繋がったのだと思えます。2つ目は、“繋がり“です。私は初めてこのような研修会に参加させていただきました。そんな私に初めて会うのにもかかわらず、皆さんは当たり前のように温かく接してくれました。私はこれがとても素敵だなと感じ、次の日からは笑顔を意識して過ごしました。その結果、自分も自身もこのお互いが支え合っている“輪“のような素晴らしいチームの一員になれたような気がして、本当に嬉しかったです。また、良い意味で“世間の狭さ“も感じました。“繋がり“だけで人と人の心は通わせることができるということに改めて感動しました。これらから、私は研修会の目標であった“チームワーク“を感じて高めることができ、成長することもできたと思えます。さらに、思ったことを口に出すことにチャレンジしたため、吃音も少しばかり解消されたように感じました。3つ目は、“知識“です。今までの知識を「1」とすると、私はこの研修会で「10,000」まで成長することができたと思えます。その大きな鍵となったのは“メモ“と“質問“だと思います。第4の審判員や見学をしながらメモ、振り返りの中でメモ、講義中にメモ。ご飯中に質問、散歩中に質問、講義中に質問。とにかく知らなかったことがあったらその瞬間“メモ“と“質問“をしました。このようなことは当たり前かもしれませんが、私はあのダイソンよりも知識を吸収したと自負できます。

このように私は、本当に充実した3日間を送ることが出来ました。まず、こんな素晴らしい研修会に招待して下さったインストラクターの皆さんには心の底から感謝しています。また、運営に携わ

ってくださったサッカー協会の皆さんにも感謝をお伝えしたいです。私は今回、多くの人の影響を受けて成長することが出来ました。これからは、私も他の人から憧れる優しい人になるために“今日が1番若い日”という言葉を中心に刻んで、日々努力を続けていきたいと思えます。今年は2級審判員の資格を取りたいと思っています。その際はまたお世話になります。よろしく願い致します。

○参加審判員 神野 亮（室蘭地区所属3級審判員）

今回の研修会に参加させていただきありがとうございました。とても勉強になり、そして、とても楽しく充実することができました。今まで指摘されたことのない自分自身の癖や課題が見つかり、審判することがもっと面白くなりました。これからの審判をすることがすごく楽しみです。2日目の主審を務めた試合は急遽、副審に靱山 INS に入ってもらい、とても勉強になりました。その試合は平石 INS にも第4の審判員をしていただき、アディショナルタイムの確認をする時に普段緊張はあまりしない方なのですが、時間になって伝える時はとても緊張してしまい、自分が伝えた時間が合っているのか少し怖くなりました。自分も今回指導してくださったインストラクターの皆さんのような高いレベルを目指して、自分自身の課題を克服し、今後の審判活動をしっかりやっていきたいと思えます。自分の目標は鹿児島で開催される全日本少年サッカー大会に審判員として行くことなので、あと一年室蘭地区や道南ブロックレフェリーアカデミーで指導を受けながら、目標を達成できるように頑張りたいと思えます。今後ともご指導のほどよろしくおねがいいたします。

○参加審判員 鈴木 辰汰（オホーツク地区所属3級審判員）

はじめに、今回の研修会に関わって準備して頂いた皆様、このような貴重な機会を用意して頂きありがとうございました。今回の研修会では「チームワーク」というのが全体のテーマで、普段行おうとしてもなかなか行動に起こせなかったことや、意識してこなかったことを求められました。試合を重ねていく中で、自分の中でも理解し、手応えをつかむことができた感覚があったので、地区に戻ってからもトレーニングや審判理解を継続し、強みにしていきたい所となりました。また、レフェリングの部分では角度や身体の向きはもちろんのこと、1つ1つの動きを止まって行う丁寧さや毅然とした対応についてアドバイスを受け、2級上申に向けて地区で活動を行う際に、それらのことを意識して取り組んでいきたいと感じました。このたびは本当にありがとうございました。

○参加審判員 千葉 史恩（札幌地区所属3級審判員）

前回の1回目の研修会に参加させて頂きましたが、今回はたくさんの参加者がおり、その分楽しめる事はもちろんなのですが、たくさんのことを学ぶことも出来ました。例を挙げるすると、「off the pitch」や「on the pitch」時のrefereeの在り方や、今回の講義テーマでもあった試合を行う上での【チームワーク】についても学ぶことができました。各チームでテーマを設定し、実践しましたが、自分なりにそのほとんどを行うことができたと思えました。具体的には「伝えるのは声だけでは無い」という観点から、副審や第4の審判員との連携の手段においては、アイコンタクトをとる、フラッグを用いて知らせることなどです。個人的な目標にしていた「走力、自信、姿勢」の観点からは、まず「走力」では、日頃トレーニングをしておらず、スタミナがなく疲れる場面が多かったと思えます。これからはしっかりと日々トレーニングを行っていきたく思えました。次に「自信」では、ファウルとるように心がけましたが、思った以上に笛を鳴らすことができずにドンドン崩れてしまいました。そうなる前に自信を持てていればよかったと思えました。「姿勢」では、主審を行う際のシグナルを指先まで力を入れ胸を張ることを意識して行うことができました。今回のこの研修会を

通じてたくさんの学びがあり、今後の審判活動にどんどん生かしていこうと思いました。最後になりますが、指導していただいたインストラクターの皆様や、各地区協会の方々、本当にありがとうございました。またこのような機会があれば是非とも宜しくお願い致します。

○参加審判員 秋山 心音（北海道所属2級審判員 オホーツク地区所属）

まずはじめに、今回のユース研修会に参加させていただき有難うございます。道協会主催のユース研修会への参加は今回が初めてでした。そして私にとってはユース審判員としての最後の活動でした。普段は大人の審判員の方々にサポートして頂きながらだったところを、今回はユース審判員のみで試合を作り上げていくという点では、いつも以上に強い責任感を感じました。しかし試合内外関係なく、今回出会えた素敵な仲間たちと過ごすことのできたこの3日間はとても充実したものでした。今回の研修会を通して出会えた仲間や、今後新たに出会い共に活動する方々をこれからも大切に、審判活動に励んでいきたいと思えます。室蘭地区サッカー協会の方々をはじめとする、私が今回の研修会に参加させていただくにあたって関わって下さった皆様に感謝申し上げます。この度は本当に有難うございました。

○参加審判員 高橋 陽斗（北海道所属2級審判員 十勝地区所属）

このような研修会を開催するのが難しい社会状況ではありましたが、研修会を開催また参加させていただいたことに心より感謝しています。この研修会では「チームワーク」ということをテーマとして試合に臨みました。実際試合を担当してみて、審判団でチームワークが必要な場面というのはとても多く、試合後のミーティングでは「もっとこうすれば試合を円滑に進められる」、「打ち合わせをしていれば…」という声を沢山聞きました。いつもやってる試合前の打ち合わせで試合を円滑に進める為に主審として他のレフェリーに求めている事の少なさを実感しました。この研修会は初めて会う審判員もいてとても刺激を受けた研修会でした。また、現役の強化指定審判員の靱山さんの副審する姿を見て、自分もまだまだ成長して行かなければならないと言うプレッシャーと共に、自分もこれくらいのレベルになってレフェリングしたいという思いが強くなり、これからの審判人生にとってもワクワクしています。また、僕は普段姿勢があまり良くはありませんが、靱山さんは普段もとても姿勢が良かったため、副審の時も見栄えがとても良く感じました。自分も日頃から姿勢を正しくし、レフェリングの向上に繋がりたいと思えます。来年度からユース審判員ではなくなり、よりレベルの高い環境で審判活動をしていきます。このユース時代に学んだことをそこでも活かし、より理想の審判員に近づいていけるよう努力していきたいと思えます。最後になりますが、ご指導くださったインストラクターの皆様、試合関係者の皆様、日頃より大変お世話になっております北海道、十勝地区の関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。この度は本当にありがとうございました。

○参加審判員 二谷 夢翔（北海道所属2級審判員 北空知地区所属）

この度はユース研修会に参加させていただきありがとうございました。たくさんのインストラクターの方々とユース審判員の皆さんと交流をさせていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。講義や実技研修で学んだことを再確認し、今後の活動にも活かしていきたいと思っております。このたびは本当にありがとうございました。

○インストラクター 平石 暁史（北海道サッカー協会審判委員会育成部ユース研修会担当）

まず、研修会の開催にあたり、室蘭地区サッカー協会審判委員会の鈴木様、三平様をはじめ、審判研修のための試合を提供いただいた北湘南サッカースクールの皆様のご理解ご協力に、改めて感謝申し上げます。また、ユース審判員を推薦くださった各地区協会と、全面的にサポートいただいた各地区協会審判委員会の皆様に心からお礼を申し上げます。

今年度第1回目の研修会は、少数での開催でありましたが、第2回目の本研修会は全道各地から9名の審判員が集い、審判団というひとつのチームとして、そして試合を担当する4名の審判チームとしての在り方について、追求することを目指したものでした。毎回感じさせられることですが、高校生の若い審判員が寝食を共にし、互いに理解を深め、笑顔の中にも緊張の面持ちで、審判として試合に臨む姿に、ひとつの輝きを感じる瞬間があります。審判員の感想の中にもありますが、審判は主審だけではなく、副審と第4の審判員を含め4名のチームであります。個人の力量はそれぞれに差があるかもしれませんが、チーム力というのは個人の力というよりは、4名の審判員がいかに試合前にコミュニケーションを図り、対話を繰り返して広げ、試合中は視線を合わせたり、呼吸を合わせたり、互いのことを気づかい合うことが重要となります。金曜日の夜に集合した審判員は、すぐに研修の目的を理解し、互いの胸を開きよく会話をし、よく一緒に行動してくれました。そうすることで、試合前の打ち合わせを入念に行うこともできますし、試合後には審判員同士で試合を振り返ることができるように自然となっていきました。若い審判員たちは与えられた環境にすぐに順応し、変化できる力があると感じさせてくれた場面でありました。

また、2日目の夜の研修では、北海道レフェリーアカデミーでの2年間の活動をこの3月に修了する3期生が、苫小牧市で行われている研修会場から伊達市まで来てくださり、後輩にあたるユース審判員たちにレフェリーアカデミーの活動実践や、審判員である前に必要な人間性の大切さについて熱く語ってくださったことも、インストラクターとしてはたいへんありがたく拝聴させていただきました。若い審判員がさらに若い審判員へメッセージを伝える取り組みは、本当に素敵な時間と感じさせてくれた姿でもありました。

次年度も8月と3月に道内のユース3級審判員が参加できる研修会を開催させていただきたいと計画しています。1回目の報告の繰り返しにはなりますが、審判員として縦のつながりも大切ではありますが、ユース審判員同士の横のつながりを広げていただくことも研修会のもつ意義と考えます。次年度も高校生審判員の輪を広げ、同じ目標をもった若者たちが目を輝かせながら励んでもらえるような研修会を企画実践していくと同時に、審判技術や知識の習得だけでなく、審判員としての資質や人間性を育てる場としても活動していきたいと思っております。引き続き皆様のご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

